

高度医療で地域を支える

■救急医療体制と当院の位置付け
津山中央病院は岡山県北の津山市に立地しており、岡山県北に存在する唯一の救命救急センターを有している。岡山県美作地域と兵庫県の一部（面積にして大阪府の約1.5倍）に住む人口23万人の救急医療を担っている。

岡山県北において緊急カテテル、ECMO（体外循環回路による人工心臓を使用した治療）、緊急手術、集中治療を行えるのは当院のみであり地域救命の最後の砦として地域医療を守り続けている。県北の救急搬送の約半数にあたる年間約5千台の救急車を受け入れている。



まえやま・ひろき 岡山大学卒。ドクターヘリ出動日本一を誇る兵庫県但馬救命救急センターで約8年の修練を積み、2020年から現職。ドクターヘリやドクターカーの知識技術を競う全国大会で優勝歴あり。救急科専門医、麻酔科専門医、集中治療専門医。

⑦ 新ドクターカー運行から半年、 地域の救命率が向上

津山中央病院救命救急センター長 前山 博輝



津山中央病院のドクターカーとスタッフ

■新ドクターカーシステム開始
2022年4月から新しいドクターカー事業が開始されることになった。
新ドクターカーの車両は地元会社から寄贈を受け、ドライバーも独自に雇用した。運行日数は平日日中50週（約250日）と拡充し、運行範囲も今までの津

山圏域だけでなく美作市・西栗倉村・真庭市・新庄村が追加され、大阪府の1.5倍の面積をカバーすることができるようになった。
ドクターカー要請から出動までの時間をより短くするため、消防の指令センター（119番要請を受ける消防部門）と連携し救急車

出動と同じ仕組みで要請を受けられるようにした。今まで7分かかっていただドクターカー要請から出動までの時間が1分となり、日本でも一、二を争う速さで出動することが可能となった。
また救急現場の場所もドクターカーの医師のスマートフォンに地図伝送されるようになり、よりスムーズな運行ができるようになった。半年の運行で350件の要請があり、本年度は年間700件ほどの要請見込みとなっている。これは中四国のド



クターカー要請件数でも一、二を争う数であり、地域での活用が十分になされている証拠であると考えている。

■効果のあった事案

中年男性が反応がないとのこと。救急要請、ドクターカーも同時要請。心停止の状態であり救急隊とドクターカースタッフが協力し蘇生、電気ショックを行った。ドクターカーの医師の診察の結果、急性心筋梗塞の可能性が高く、病院内に救急医師と循環器医師の招集とカテテル室の準備を指示した。病院到着しそのま

まカテテル室へ入室後、人工心臓が装着され急性心筋梗塞の診断でカテテル治療、患者は後遺症なく社会復帰した。
今後の課題は運行日、時間の拡大である。現在の平日日中運行から土日祝日も合わせた365日対応かつ夜間対応まで拡充していく予定である。またドクターカーの充実だけでは地域救急医療の充実は達成できず、消防機関や院内体制を巻き込んだシステムの充実、質の向上も同時に行い地域住民の方々の安心安全、患者予後の一層の改善を目指していきたい。

1) 津山中央病院 (0868) 2811